

令和3年度第1回少子化における児童生徒の
教育環境の充実に向けた取組研究会 次第

日 時 令和3年9月 28 日(火)18:30～20:00

会 場 飯田文化会館1階展示室

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. 座長あいさつ
4. 委員自己紹介
5. 研究会会議録の内容確認・公開について
6. 報告・説明事項
 - (1)令和2年度からの経過
 - (2)令和3年度1学期の学校運営協議会での意見交換について
7. 協議事項
 - (1)今後の進め方について
 - ①令和3年度2学期意見交換の進め方
 - ②令和4, 5年度の進め方(ロードマップ)
 - (2)各家庭に配布する資料について
 - (3)研究会委員の任期について
8. 次回開催案内
令和3年度末
9. 閉会

○飯田市少子化における児童生徒の教育環境の充実にに向けた取組研究会設置要綱

令和2年 11 月 26 日

教委告示第 18 号

(設置)

第1条 飯田市の児童生徒の減少を踏まえ、今後の教育環境の充実にに向けた研究をするため、飯田市少子化における児童生徒の教育環境の充実にに向けた取組研究会(以下「研究会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 研究会は、少子化における児童生徒の教育環境の充実にに向けた取組の進め方等について協議する。

(組織)

第3条 研究会は、委員 20 人以内をもって組織する。

2 研究会の委員(以下「委員」という。)は、飯田市校長会代表並びに飯田市 PTA 連合会代表、飯田市保育園保護者会連合会代表、飯田市私立認定こども園保護者等連合会代表、各地区のまちづくり委員会等の会長の中から選出された者、飯田市公民館代表及び学識経験者のうちから飯田市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が委嘱する。

3 飯田市教育長及び飯田市教育長職務代理者は委員となる。

(任期)

第4条 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(座長及び副座長)

第5条 研究会に座長及び副座長を置き、座長は飯田市教育長をもって充て、副座長は座長が指名する。

2 座長は、研究会の議事を進行する。

3 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるとき又は座長が欠けたときは、座長の職務を代理する。

(会議)

第6条 研究会の会議は、座長が招集する。

2 座長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(事務局)

第7条 研究会の事務局は、教育委員会事務局の学校教育課内に置く。

(補則)

第8条 研究会は、必要に応じて関係団体の意見を聴くことができる。

2 この要綱に定めるもののほか、研究会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

令和3年度「少子化における児童生徒の教育環境の充実にに向けた取組」研究会 委員名簿

氏名	所属等	備考
木下 潤児	飯田市校長会	浜井場小学校長
斉藤 辰幸	飯田市校長会	鼎中学校長
島崎 誠	飯田市PTA連合会長	高陵中学校PTA会長
酒井 正也	飯田市PTA連合会監事	和田小学校PTA会長
鈴木 紳也	飯田市保育園保護者会連合会長	丸山保育園保護者会長
林 克義	飯田市私立認定こども園保護者等連合会長	入舟幼稚園保護者会長
大場 孝	東野まちづくり会議会長	Aブロック代表
安田 完爾	鼎地区まちづくり委員会会長	Bブロック代表
熊谷 兼富	上村まちづくり委員会会長	Cブロック代表
宮下 博	伊賀良まちづくり協議会会長	Dブロック代表
渡邊 義昭	飯田市公民館長	上郷公民館長
後藤 正幸	有識者	前信濃教育会会長
伏木 久始	有識者	長野県教育長職務代理者 信州大学学術研究院教育学系教授
坂野 慎二	有識者	玉川大学教育学部教授
代田 昭久	飯田市教育委員会 教育長	
北澤 正光	飯田市教育委員会 教育長職務代理者	

16名

令和3年度「少子化における児童生徒の教育環境の充実にに向けた取組研究会」
事務局名簿

氏名	職責	備考
代田 昭久	飯田市教育長	研究会委員を兼ねる
北澤 正光	飯田市教育長職務代理者	研究会委員を兼ねる
松下 徹	参与、教育次長事務取扱	
桑原 隆	学校教育課課長	
湯本 正芳	学校教育課学校教育専門幹	
塩澤 裕美子	学校教育課教育指導専門主査	
麦島 隆	学校教育課教育指導専門主査	
小木曾 雄亮	学校教育課教育指導専門主査	
山浦 貞一	学校教育課教育支援指導主事	
櫻井 英人	学校教育課課長補佐兼総務係長	
竹村 公彦	学校教育課課長補佐兼教育企画担当主幹	
上沼 昭彦	学校教育課課長補佐兼学務係長	
仲田 好寿	学校教育課保健給食係長	
上柳 智広	児童クラブ担当専門主査	
熊谷 一彦	学校教育課学校施設係長	
小澤 亮公	学校教育課学校施設係	

16名

令和2年度からの経過

R2. 10月

- 教育委員会学校教育課学務係内に、教育企画担当主幹を1名配置し、少子人口減少社会や学校施設の老朽化等の教育課題について研究し解決することとした。

R2. 12月15日 第1回研究会

- ①「児童生徒が減少していること」「校舎の老朽化が進んでいること」「校舎の更新に多大なコストがかかること」
- ②数合わせではなく、子どもを真ん中に置いて、将来の子どもたちにとって望ましい教育環境はどんな学校か、みんな(教職員、保護者、地域、教育委員会で考えていく。→地域とともに歩んできた飯田市の学校にふさわしい方法。
- ③「将来にわたり子どもたちが主体的に学び合える場」をもとに令和3年度に各学校運営協議会で意見交換。
⇒①②③について共有

※研究会は「飯田市少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会」の略研究会の構成員は有識者及び各種団体代表者の計16名で組織：[事務局員16名]

R3. 3月3日 第2回研究会(勉強会)

研究会の委員である二人の有識者から先行事例等についてプレゼンしていただく。

- 坂野 慎二 教授(玉川大学教育学部)
「少子化における児童生徒の教育環境について」
 - ・文部科学省の通知やデータの照会
 - ・栃木県小山市の事例
- 伏木 久始 教授(信州大学学術研究院教育学系)
「これからの学校教育に求められる学びをどうイメージするのか」
 - ・少子人口減少社会に求められる教育
 - ・県内の事例

R3. 5月14日 第3回研究会

- 1学期の学校運営協議会での意見交換の前提として
- 今後の学校のあり方については、児童生徒数や学校施設の状況などにより、それぞれの地域の捉え方や認識に違いがある。それぞれの状況を踏まえながら、丁寧に意見交換を進めていく。
- 飯田市全体の現状を説明したうえで、それぞれの学校の様子や課題、地域の取り組みなどについて結論ありきではなく意見を出し合う場とする。
- 第1回研究会では、「将来にわたり子どもたちが主体的に学び合える場」をもとに意見交換するとしたが、課題解決の検討材料の例は、各学校運営協議会での意見交換を踏まえたうえで示していきたい。

R3. 5月~7月 各学校運営協議会(26会場)

①一定生活圏域の中での小中一貫教育

・小、中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す。

・義務教育学校と小中一貫型小学校,中学校の2つの形態

○期待できる効果

- ・教育主体、教育活動、学校マネジメントの一貫性の確保
- ・組織的、継続的な教育活動の徹底による教育効果の向上
- ・子どもたちの社会性の育成機能の向上(異学年交流、部活動など)
- ・いわゆる「中1ギャップ」の緩和をはじめとする生徒指導上の諸問題の減少

○県内例：・根羽村立義務教育学校根羽学園

・大町市立美麻小学校 ・信濃町立信濃小中学校

②地域特性を踏まえた特色ある学び

・小規模校ならではの魅力を生かした学校づくり

・特色に共感する他の地域の児童生徒の受け入れ

○期待できる効果

- ・学校の存続と教育環境の維持
- ・さめ細やかな指導
- ・ICTを活用した複数学校間(市外、県外の学校とも)の合同事業
- ・学校と地域の強い絆

○市内例：上村小学校 平成29年12月小規模特認校に指定(上村コミュニティからからの要請を受ける形)

③地域づくりを踏まえた学校施設の複合利用

・学校施設と地域の児童クラブ、図書館、公民館、公民館、保育所などを複合的に設置する

・学びの場である学校を中心に地域コミュニティの拠点を形成する

・新設する校舎に包含する方式、空き教室を有効活用する方式

○期待できる効果

- ・児童生徒や地域住民に多様な学習環境を創出する
- ・児童生徒を含めた地域住民同士の交流の機会を創出する
- ・規模は縮小するが、地域に必要な施設を地域に残すことができる
- ・公共施設の集約により利便性が向上する

○県外例：・千代田区立昌平小学校 幼稚園、保育所、児童館、図書館

・京都市立京都御池中学校 保育所、老人デイサービス、在宅介護支援センター、行政機関、店舗(民間)

・南砺市立利賀小中学校 放課後児童クラブ、公民館

④実態を踏まえた通学区の見直し

・隣接した学校で児童生徒数に違いがある場合、同規模程度になるよう通学区を見直す

・地域の思い、空き教室の状況などの勘案が必要

○期待できる効果

・小規模校の存続が可能となる

⑤地域の実情を踏まえた隣接校間の統合

・隣接する小学校間、もしくは中学校間の統合

○期待できる効果

・単級学級や小規模校が解消できる

少子化における児童生徒の 教育環境の充実に向けた取組

1 学期学校運営協議会での意見交換のまとめ

令和3年（2021年）9月

飯田市教育委員会

はじめに

コロナ禍ではありましたが、「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組」について、各地域や学校では、令和3年度の1学期に学校運営協議会にて協議いただいたことに感謝申し上げます。

さて、社会の変化は情報化やグローバル化だけでなく、それと同時に、これまで経験したことのない人口減少・超少子高齢化が進行しています。そのような中で、子どもたちが笑顔で通うこれからの学校像を描くことは、従来の教育環境整備だけでは難しくなり、県内はもとより下伊那のなかでも様々な動きがあることはご承知いただいていると思います。

飯田市でもこれは遠い将来の課題ではなく、今の大人が考えなければならない、そして先延ばしにできない課題であると考えています。そこで、地域や保護者の皆さんと一緒に「これからの時代の教育に対応したよりよい教育環境」について、まずは市内すべての学校運営協議会で協議をスタートさせていただきました（1学期26会場）。

一回目の学校運営協議会では、飯田市の小・中学校を取り巻く現状を理解していただくために、客観的な数字や事実（児童生徒数の推移、施設の状況、財政負担など）を示し、説明させていただきました。そこでは「特色・魅力ある学校づくり」や「学校の配置・枠組み」「地域の活性化」などについて貴重な意見をいただきました。中でも「地域としてどんな子どもに育てたいか、みんなで考えていきたい。」という内容の意見を多数いただきました。教育委員会としても、出されたご意見や要望等に対して、誠実に向き合い、今後検討を進めていきたいと考えています。

そして、それぞれの地域において、地域の将来の姿を描きながら、地域の資源を生かした特色と魅力ある学校環境が生み出されていくように、飯田市教育委員会も一緒に歩んでまいりたいと思います。

【表の見方】

- (1) 中学校区ごと（全9中学校区）に整理しています（合同運営協議会も含む）。
- (2) 各校区の独自性、提案性のある意見については、◆ゴシックで表示しています。
- (3) 市教委や市に対する要望や質問等については、☑下線で表示しています。
- (4) 表の項目については以下のとおりです。意見交換で出された意見については、内容から3つの項目に分類しました（特色・魅力ある学校づくり、学校の配置・枠組み、地域の活性化・その他）。

学校名	基本情報	意見交換で出された内容		

学運協開催日、R3児童生徒数・学級数、R9児童生徒数予想

発言内容から3項目に分類

- 特色・魅力ある学校づくり
- 学校の配置・枠組み
- 地域の活性化・その他

【飯田東中学校区】…小2校、中1校

学校名	基本情報	意見交換で出された内容のまとめ[☑: 次回に向けた要望・質問事項]		
		特色・魅力ある学校づくり	学校の配置・枠組み	地域の活性化・他
飯田東中学校	<p>■開催日 6/18 23名</p> <p>現在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・196人 ・6学級 <p>6年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・160人 (見込) 		<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に小さい企業で体力がなくコストがかかりすぎるという場合は統合しかない。 ・最終的には行政がどこを統合するか決断しないと地域住民は動かない。 ・建替えの資金が不足する場合はクラウドファンディングを活用する。 ・統合により空いた学校敷地は宅地造成し、小中学生のいる家庭限定で分譲する。その資金を学校建替えの資金とする。 <p>◆追手町小、浜井場小、東中を統合して東中に新校舎を建てる。飯田市のコミュニティスクールとして小中一貫教育とする。小5,6年生もりんご並木作業をすれば、一層愛着が湧く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早い段階で決断しないと、生徒がまるっきり少なくなってからでは遅い。 ・資料によると校舎の維持更新コストが何倍にもなる。早々に決めていかないと、とんでもないことになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決定をするにあたって飯田市全体に説明して前向きな賛成論が増えることが大事。 ・6年後に東中学校区が370人になってどこが悪いのか。今回の提案では、なぜ緊急性があるのか、☑生徒が減ることの弊害が理解できない。
	追手町小学校	<p>■開催日 7/8 9名</p> <p>現在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・143人 ・6学級 <p>6年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・121人 (見込) 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔に比べて子どもたちだけで外で遊ぶことがなくなった。子どもたちが自分でルールを決めて考えて行動することが少なくなっている。 <p>◆追手町小、浜井場小、丸山小、東中の合同授業を考える。リモートだけでなく肌と肌が触れ合いながら伸びていくことは大切。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに関わる大人が減っていくことが心配。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑特に低学年の保護者の意見が大事。そういう方たちも含めたプロジェクトが必要である。 ・昔から私たちが学んできた校舎なので残してほしい。 ・追手町小から浜井場小や大久保小ができた。追手町小は核であり橋南のシンボル。

浜井場小学校	<p>■開催日 6/14 12名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建物も大事だが、子どもたちが何を学びたいかが一番大事。 ◆学校や地域という境は関係ない。丘の上の子どもをどう育てたいか考えるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化しているので小さい校舎に建て替える。 ・10年なんかすぐ。難しいことだが早めの対応が必要。 ・少子化の中で浜井場小と追手町小をこのまま2校維持していくのは予算的にも不可能ではないか。1校しか持てないのであれば市教委が方向性をきちんと出す。その上で学校をどこにするかの会議であってほしい。 ◆浜井場小に統合し、追手町小の校舎は文化遺産として残す。 ◆東中、浜井場小、追手町小の小中一貫校とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校は地域の文化であり、愛着もある。残してもらいたい。 ◆低学年は浜井場小、追手町小へそれぞれ通い、高学年は追手町小へ行く。浜井場小の空き教室は公民館が入る。 <ul style="list-style-type: none"> ・合併に抵抗があるのは年配の世代。子どもたちは抵抗ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ <u>いろいろな意見を持っている人がいる。アンケートを取ったらどうか。</u> ・円筒校舎は公民館の活動などで愛着がある。文化財として残したい。 ・出生数が少なく、民生委員として赤ちゃん訪問をしているが昨年度からほとんど行っていない。
	<p style="text-align: center;">現在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・132人 ・6学級 			

【飯田西中学校区】…小1校、中1校

学校名	基本情報	意見交換で出された内容のまとめ [☑: 次回に向けた要望・質問事項]		
		特色・魅力ある学校づくり	学校の配置・枠組み	地域の活性化・他
飯田西中学校 ・ 丸山小学校	<p>■開催日 合同 6/24 14名</p> <p>現在</p> <p>[西中] ・226人 ・7学級</p> <p>[丸山小] ・459人 ・17学級</p>	<p>・東中のサッカー部が廃部になったが、今後西中でも起こりうること。</p> <p>・生徒数が減ることで学業面では身の入った教育ができるのではないか。</p> <p>◆空き教室を利用して日頃から大人と触れ合える場所があると良い。</p> <p>◆都会では地域で子どもを育てるということはできない。それができるのは飯田のメリットである。</p> <p>☑<u>教育学者や既にそういう環境にある自治体の情報がほしい。</u></p> <p>◆子育てビジョンをベースにしてどんな子を育てていくのか、それにはどんな環境を整えたらいいかを検討していく。</p> <p>◆地元の良さを味わってもらい、県外に出ても戻って来たいと思うような思い出を作ってもらいたい。大人の気持ちや地域の気持ちを分かってもらうことから始めたらどうか。</p>	<p>・西中、丸山小の連携を強固なものにしていく。</p> <p>◆西中、丸山小は小中連携一貫教育がやりやすい環境。</p> <p>☑<u>1クラス最低何人であれば建物を維持しながらやっていけるか示してもらおうとイメージが湧く。</u></p> <p>☑<u>保護者世代の発言を軸に置くべきと考える。</u></p>	<p>☑<u>将来人口推計等のデータを出してもらいたい。</u></p> <p>☑<u>この議論を先延ばしすることは子どもにとって一番不幸。</u></p> <p>☑<u>学運協のメンバーは変わっていく。どう議論を成立させるかが難しい。</u></p> <p>・まちづくり委員会があまり先走らない方が良い。まず保護者の意見を積み上げる。まちづくり委員会は一つの方向性を出そうとした時に、地域の思いへ対応していくことが役割かもしれない。</p>
	<p>6年後</p> <p>[西中] ・182人 (見込)</p> <p>[丸山小] ・429人 (見込)</p>			

【緑ヶ丘中学校区】…小3校、中1校

学校名	基本情報	意見交換で出された内容のまとめ [☑: 次回に向けた要望・質問事項]		
		特色・魅力ある学校づくり	学校の配置・枠組み	地域の活性化・他
緑ヶ丘中学校 ・ 松尾小学校	<p>■開催日 合同 7/12 26名</p> <p>現在</p> <p>[緑中] ・632人 ・19学級 [松尾小] ・736人 ・23学級</p> <p>6年後</p> <p>[緑中] ・620人 (見込) [松尾小] ・700人 (見込)</p>	<p>・学運協での話が地域に伝わっていない。 地域でこのような話題を共有できるよう公民館でも考えていきたい。</p>	<p>☑もっと早くから取り組むべき課題であった。</p> <p>☑飯田市はそれぞれの地区が学校を持って合併している。飯田市全体で学校の数はいくつが適正なのか。</p> <p>・地域によっては小中併設校を考えていく。学校数も減るし、教員も確保できる。</p> <p>・子どもの数が減っても地域の小学校として残してほしい。</p> <p>・小中学校は歩いて通うことができる場所であってほしい。</p>	<p>・学校だけでなく、飯田市の地区数は20でいいのかも議論すべき。 運動会の人集めも大変な地区もある。</p> <p>◆リニア開通に向けて子育てしやすい環境を整え、都会の人を引き込む。</p> <p>・延長保育や長期休み中の小学生への対応など、共働き家庭の子育てを支援してほしい。</p>
竜丘小学校	<p>■開催日 7/21 11名</p> <p>現在</p> <p>・379人 ・13学級</p> <p>6年後</p> <p>・298人 (見込)</p>	<p>◆これからの多文化共生社会を生き抜いていくために、子どもたちには多様な学びを保障したい。</p> <p>◆地域が学校をサポートすることはかなりできているが、学校から地域へということが不足していると思う。竜丘小専属の先生が柱となって地域との関係を構築していく。</p> <p>◆竜丘には古墳など子どもたちへ与えるべき教育資産がたくさんある。それを磨き上げていけば竜丘ならではの教育に繋がる。</p> <p>・学校での時間の使い方がもっと自由になれば、学校ブランドをもっと磨いていける。</p>	<p>・竜丘小はR9で80人減る。竜丘地区は子育てしやすい場所だと思っていたが、愕然とした。</p> <p>・竜丘小は今のところ統合の心配はないと思う。</p> <p>・義務教育学校は魅力的。1年生から9年生が交流しながら学び合うのは学びの多様性の面からも意味がある。</p>	<p>・魅力あるまちづくりを真剣に考えないと若い世代が出て行ってしまう。</p> <p>・若者がいずれ帰って来たいと思えるふるさと作りに力を入れなければいけない。</p> <p>・帰って来たいが働き場がないとあきらめている人がいる。</p>

<p>竜丘小学校</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・竜丘小の周りを文教ゾーンにし、付加価値をつけて魅力化を図ることも大事。 ◆空き教室に竜丘の古墳のことが全て分かる部屋を作り、地域へ開放する。 ・放課後子ども教室は70人ほど来ており、子どもたちは縦の関係を意識している。そういう縦の関係を学校内で保証していけば小中一貫教育に繋がる。 ・放課後子ども教室は人気が高く、子どもたちが生き生きと楽しんでいるのが分かる。 ・放課後子ども教室ではなるべく上級生にリーダーシップを取らせるようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・都会に比べて特別支援学級の子どもでも学びやすい環境が飯田にはある。
<p>下久堅小学校</p>	<p>■開催日 7/8 13名</p> <p>現在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・139人 ・6学級 <p>6年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・92人 (見込) 	<ul style="list-style-type: none"> ☑<u>子どもが減る中でどう環境を良くしていけるか。内容とのバランスでどこまで費用が出せるか。</u> ・地域で子どもを見るという放課後子ども教室の取組みは、ありがたい。 ・保護者は学校外の活動や放課後子ども教室、公民館活動などにも目を向けていく。 ・下久堅が自慢の地域になるような活動により、下久堅へ戻ってくる流れに繋がる。 ・中学校区でのスポーツ交流を実施していく。 ☑<u>児童が減っても先生は必要。中学の先生が小学生を教えることなどを考える。</u> ◆空き教室を利用して下久堅の博物館を作り、常時一般へ開放する。 ・地域の人材を学校に向け、地域の子どもは地域で育てる。先生の負担も軽くしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下久堅小では統合の話はまだ少し先の気がしている。 ・単級の学校が多くなったとか、子どもが減ったという理由での統合はしてほしくない。 ・校舎が古くなっても使えるものは使っていく。改修等で長持ちさせる。予算がないなら途中でやめていくしかない。 ☑<u>校舎は安全であれば我慢ができる。だが人にかかる費用は減らしてほしくない。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・親が出て行けば子どもが減るのは当たり前。下久堅に残ってもらうことを考える。 ・南信州に4年制大学があれば、地域に留まってくれる。また移住が増える可能性がある。 ・リニアが来ても東京や名古屋へ引っ張られないような下久堅の魅力をどう作っていくか。 ・子どもたちのことは地域の課題として考えなければいけない。

【竜東中学校区】…小3校、中1校

学校名	基本情報	意見交換で出された内容のまとめ [☑:次回に向けた要望・質問事項]		
		特色・魅力ある学校づくり	学校の配置・枠組み	地域の活性化・他
竜東中学校	<p>■開催日 6/28 21名</p> <p>現在</p> <p>・64人 ・3学級</p> <p>6年後</p> <p>・65人 (見込)</p>	<p>◆道徳や体育などは全校でやるなど授業を工夫する。</p> <p>◆竜東中の教育環境はすごく良い。教育の密度の高さや教育環境の良さを7ピットしながら学校を盛り上げていく。</p> <p>・学校の特色は学力には関係ないかもしれないが、人間性を育てるには大事なこと。</p> <p>・ふるさと学習などで教える方も年を取っていて、後を継ぐ人が必要。</p>	<p>・保護者は1学年で野球チームが2つできるくらいの人数を望んでいると思う。</p> <p>・少人数だと友達とのコミュニケーションの手段に限られる。ある程度人数がいる中で揉まれるということがあっても良い。</p> <p>☑<u>50年で改築が分かっていたのなら協議が遅すぎるのではないか。</u></p> <p>◆各地区のICは脇に置いて、子どもや竜東地区全体のことを考えたい。</p> <p>☑<u>地域の人たちがこの課題をよく理解したうえで、そこから意見が上がってきて進めていくという形にする。</u></p> <p>・ICTなどこれから教育指導の方針も変わっていく。そういう教育にふさわしい規模かも重要。</p> <p>◆小さい学校同士の統合は意味がない。竜東中学校区全体での小中一貫校を考えても良い。</p> <p>また竜峡中学校区とも合わせて一つの学校でも良い。</p> <p>・竜東中は龍江にあるのに龍江の子が来ないのは寂しい。</p> <p>・小学校は地域のおらが学校という意識が強いが、中学は少し違うと思う。そういう意味では統廃合や通学区などの課題について地域の意見の集約がしやすいのではないか。</p>	<p>☑<u>結婚率や子育ての年代の分布など、なぜ子供が減るのかの資料が必要。</u></p> <p>・龍江は高齢化率が40%。空き家調査をして移住者を増やす取り組みをしている。</p> <p>・学校は規模に関係なく、地域における社会の中心。地域の中核として学校を位置付け、社会の中心として学校をどうしていくかの計画が必要。</p>
	<p>■開催日 7/19 9名</p>	<p>・全員が児童会の何かの役員になるという経験は後に役に立つ。</p>	<p>◆小学校は地域の象徴であり、希望であり、拠り所。存続していく方向で進めてほしい。</p>	<p>・定住人口を増やすことで学校を維持していく。</p>

上久堅小学校	<div data-bbox="236 215 357 282" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">現在</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 42 人 ・ 6 学級 <div data-bbox="236 383 357 450" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6 年後</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 33 人 (見込) 	<p>◆図工室で大人の陶芸教室を行っている。その中で子どもとの触れ合いも生まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手厚い授業、低学年と高学年の交流、友達同士の思いやりなど少人数の良さが出る学校にしたい。 ・ 大人になる過程で地域の魅力に気付いて記憶に残っていくことはある。そういうことから地域の関わりは大事。 ・ 少人数だからこそ顔が見えて、先生との距離も近く地域との距離も近い。 <p>◆地域の魅力を学校のいろんな行事にちりばめる。その時に、上久堅の方は非常に協力してくれる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ スローライフのために名古屋から I ターンした人がいる。その児童が現在 3、4 人いる。 ・ 空き家対策に力を入れ、IU ターンを含めて移住定住を増やす。 ・ まず地域のいろいろなイベントに関わることが定住に繋がる。 ・ 中学卒業するまでに将来の仕事が見つけれられるよう地域として取組む。 ・ 結婚を機にお嫁さんの方へ行ってしまおう。そういう人もここへ帰ってきて孫と一緒に住むのが理想。 <p>☑<u>童東中の通学に引き続き電動自転車を貸与してほしい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 17 年前から始まった「子育て支援の会」の気概を広めたい。
	千代小学校	<p>■開催日 7/12 9 名</p> <div data-bbox="236 1581 357 1648" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">現在</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 33 人 ・ 6 学級 <div data-bbox="236 1749 357 1816" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6 年後</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 30 人 (見込) 	<p>☑<u>「少人数だから競争心が育めない」などの一律的な捉えをしないでほしい。</u></p> <p>◆千代小では自然体験を十分にやっているし、地域との繋がりも大事にやってくれている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 千栄小とのことは何か検討しなければという話もある。 <p>☑<u>保護者に意見を出してもらい、子どものためにどうするかから話していかないと、上から言っても無理。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どこかで方向性を出していかないと、大変だと言っているだけでは終わってしまう。 <p>☑<u>複式学級や教員配置基準などの情報を出してほしい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学での複式指導は避けたい。教科指導が成り立たない。

千代小学校			<p><u>✓個々の校舎があと何年もつかなどの専門家の意見を出してほしい。</u></p> <p><u>✓市教委はどこかで英断してほしい。市教委主導でないと決まらない。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは子どもの中で育つ。ある程度の人数がいる中で育つことはとても大きい。 ・小規模の良さはあるが、あまり小さくなると養護教諭や学校事務がつかなくなる。 ・小さな学校では人間関係が崩れた時に修復が難しい。 	
千栄小学校	<p>■開催日 7/15 13名</p> <p>現在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・39人 ・6学級 <p>6年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16人 (見込) 	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かい指導は少人数のメリットである。 ・自然に触れ、自然と共に生きていくことは将来的にも必要な力である。 <p>◆地区に学校があった方が幸せなコミュニティになる。</p>	<p>◆千代1校、千栄1校を維持していきたいのが基本的な考えだが、様々な選択肢の中から真剣に取り組んでいきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は地域の拠り所という意味合いもある。 ・10年ほど前、千代保育園が民営化するときにごく揉めた。家庭でも世代によって意見が違う。 ・個人的には少人数になっても流れに任せていけば良い。 ・保護者の中には千栄小にこだわるよりもたくさんの中で揉まれて競い合って成長してほしいという意見はある。スポーツの選択肢も広がる。 <p>◆統合するとすれば龍江、上久堅、千代、千栄の広域統合しかない。千代、千栄の統合は将来性がない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建て替えるのであれば地元の木を使った温かいものにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市長の「飯田市を日本一住みたい町」にするには竜東地区を如何に開発するかにかかっている。 ・伊賀良や上郷などと交流し、千栄に引っ越してくれるようになれば、児童数も増える。 ・子育て住宅のようなものを整備し、市外から移住・子育てしてもらおう。 ・Iターンで農業をやっていた人が助成期間の5年が済んだらやめてしまった。移住してもらった後のサポートが必要。 ・龍江工業団地には外から家族連れで来て竜東中学校区に住んでくれるような会社を誘致してほしい。 ・小学校がないような地域に若い世代が来るかどうか。

【竜峡中学校区】…小3校、中1校

学校名	基本情報	意見交換で出された内容のまとめ [☑: 次回に向けた要望・質問事項]		
		特色・魅力ある学校づくり	学校の配置・枠組み	地域の活性化・他
竜峡中学校	<p>■開催日 6/21 17名</p>	<p>・先生が部活動を指導するのは大変。部活動は学校と切り離して考える必要がある。</p> <p>◆学校が小さくなくても地域性をなくさず地域を伝承して行ってほしい。学校は地域の宝だという思いがある。</p>	<p>☑資料から少子化や老朽化について理解できた。市はこれについてどのような考えを持っているのか。</p> <p>・龍江は竜東中と竜峡中で分かれる。成人式ではかわいそうだ。</p> <p>☑竜東中は生徒数が減り、部活数も減っていく状況だったので通学区の見直しの要望をした。地域でいろいろ意見を出してもらい全員がOKということだけでなく、方向付けはしなければならない。</p>	<p>・竜峡地域にずっと暮らしたいと思う魅力ある地域ということが一番大事。またそのグレードを上げていけば人口が減らない可能性はある。</p> <p>・若い人が減ることが問題。働く場がない。どういう方向に産業を持っていくか、もっと市に考えてもらいたい。</p> <p>・今都会から田舎への移住のニーズはある。</p> <p>・三遠南信自動車道を使った観光産業を模索している。</p> <p>・いかに子育て世代を地域に取り込んでいくか。女性が働くことへの支援も必要。</p>
	<p>現在</p> <p>・146人 ・6学級</p>			
	<p>6年後</p> <p>・142人 (見込)</p>			
龍江小学校	<p>■開催日 7/8 14名</p>	<p>・龍江にとって大事な学校。地域で学校を大事にしていきたい。</p> <p>・コミュニティスクールの目的は地域の大人が学校や子どもたちに関わり、故郷の良いところを大事にしていつか故郷に帰って来たいという気持ちになってもらうこと。</p> <p>◆一番は「子どもの幸せ」。子どもがどういう状態ならば一番幸せかを考える。</p>	<p>・学校の存在は地域の心の問題でもある。龍江だけでなく学校は地域に残してほしい。</p> <p>☑龍江4区の子だけ竜東中へ行く。龍江の中で分かれてしまう現実を考えてほしい。</p>	<p>☑各区に下ろして話し合う機会を作ってほしい。</p> <p>・地区にとっても人口減少は大きな課題だが、子どもを育てるには最高の場所。コトにより都会から移住したいというニーズは高まっている。</p>
	<p>現在</p> <p>・116人 ・6学級</p>			
	<p>6年後</p> <p>・79人 (見込)</p>			
三穂小学校	<p>■開催日 5/29 13名</p>	<p>・アクティブラーニングができる教育を進めるべき。</p> <p>☑保護者も知っておくべき課題。役員が変わっていく中でどう引き継いでいくか。</p>	<p>☑子ども中心と言っているが、財政面中心に見える。</p>	<p>・地域振興住宅は住民の増加に寄与してきたが、今年度までで残念。コト禍で地方移住を考えている人がいる。積極的に考えるべき。</p>

<p style="text-align: center;">三穂小学校</p>	<p style="text-align: center;">現在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 82 人 ・ 6 学級 <p style="text-align: center;">6 年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 48 人 (見込) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室で受ける教科のように少人数の方が目の届く教科は良いが、体育のような教科は複数年合同で行うことを考えたかどうか。 <p>☑ <u>1 クラスの人数はどのくらいが適正と考えるか。</u> 20 人を超すと一人ひとり見ることはできない。</p> <p>◆ 15 人程度であれば三穂の自然を生かした教育ができる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 市議会が市の全体を見ている。こういう課題は議会で検討すべき。 ・ 空き家の活用も重要。その面の援助もお願いしたい。 ・ 地域の応援隊や JA の若手、地域おこし協力隊の口利きが大きい。こういう人たちの協力で移住を増やしていく。
<p style="text-align: center;">川路小学校</p>	<p>■ 開催日 7/14 10 名</p> <p style="text-align: center;">現在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 98 人 ・ 6 学級 <p style="text-align: center;">6 年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 101 人 (見込) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 環境があれば人数が少なくても隣の学校と意見交換でき、大勢の考えを身につけていくことができる。 ・ 小さいなりのコンパ外な活動がしやすいのは強み。 <p>◆ 1～6 年の縦の繋がりが強く、一つの家族が校舎の中で過ごしている感じがある。そのベースは地域の繋がりが強いこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最近地区外からの転入者が増えている。地域での親同士での繋がりにより、子どもたちの魅力も引き続き持ち続けられる。 ・ 縦の繋がりが強いことは代々受け継がれているものなのだろう。当たり前だと思っていることを積み重ねている歴史はすごい。 <p>◆ 自然の中で異年齢で遊び、助け合いなどが普通にできる土壌を持っている。</p>	<p>◆ 地区に一つずつ学校がある事は大事なこと。地域の中心的な役割なので、学校を残しながら教育効果を上げることを考える。</p> <p>☑ <u>子どもは地区で育てていきたい。統合したら通学方法も心配。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川路小は当面統合しなくて大丈夫だろう。 ・ 以前、川路と三穂の保育園を統合する話があった。その時に子どもは地域で育てようという環境を作ったおかげで今に繋がっている。その意味でも小学校はこのまま継続したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくりは地域を活性化し、若い夫婦が根付いていっぱい子どもがいる状況を作るのが基本。 ・ 天竜峡エコバレーの企業に、仕事の内容や社員募集の状況などをアンケート調査したい。地元での働き口を作っていきたい。 ・ 川路では土地を持っている家の息子などが帰ってくるようになった。児童クラブができ延長保育や未満児保育も始まった。子育て支援が整ってきている。川路小が 100 人近くまで増えており嬉しい。 ・ 地域事業計画を生かしながら環境や利便性を高めていく。川路らしさを生かしながら生活面を良くしていく必要がある。 <p>◆ 以前は外から来た人にはとっつきにくい地区だった。今のような雰囲気はパッとできたわけではない。地育力の方針を打ち出したおかげだと思う。</p>

【旭ヶ丘中学校区】…小2校、中1校

学校名	基本情報	意見交換で出された内容のまとめ [☑: 次回に向けた要望・質問事項]		
		特色・魅力ある学校づくり	学校の配置・枠組み	地域の活性化・他
旭ヶ丘中学校	<p>■開催日 6/22 18名</p> <p>現在</p> <p>・599人 ・17学級</p> <p>6年後</p> <p>・515人 (見込)</p>	<p>☑<u>保護者にも説明の範囲を広げたほうが良い。</u></p> <p>◆<u>空いた教室は地域に開いていく等幅広い活用を考える。</u></p> <p>・すぐ統合の状況でない今だからこそ、今後の学校を考えておくべき。</p> <p>◆<u>地域で社体の指導者を育てる。これは大人の生きがいにもつながる。</u></p> <p>・学校は社会の縮図だからいろんな子に揉まれる経験はどこかで必要。大人になる準備として社会性をつけさせる必要がある。</p> <p>・学校に不適合になる子が増えている。そういう子の居場所が必要。</p> <p>◆<u>今の教育が地域にふさわしいものか議論する。</u></p> <p>・学校教育に依存しすぎている。先生の負担を軽くする方策や予算組みを考えるべき。</p> <p>☑<u>小中だけでなく幼保も入れないと子どもたちは健康に育たない。幼保小中連携システムがあるべき。</u></p> <p>・父母への愛着が故郷への愛着の基礎となる。</p> <p>・人数が多い中でも少人数で見たい。</p> <p>・部活が強いことも学校の良さになる。</p> <p>◆<u>地域の大人と繋がることは自己有用感が高まる。</u></p>	<p>・地域に学校があることは未来に繋がる。財政的に厳しくても地域にある学校は残してほしい。</p> <p>☑<u>子どもの教育環境を考えた時、統合すべき時はやってくる。理想の教育ができる人数をどこかで判断する必要が出てくる。</u></p> <p>・もし統合となれば誠意を尽くして話す必要がある。</p> <p>・中学がなくなると地域の活動が廃れる。</p> <p>・統廃合を議論する前に教育の中身を先ず考える。</p>	<p>・行政として外部から人が来る施策をやって欲しい。</p> <p>・地域に愛着を持ってもらうよう公民館活動を行っている。</p> <p>・多くを望まなければ生活できる。悪いところばかり見るのではなく、良いところを見つけていく。</p> <p>・飯田は都会過ぎず田舎過ぎず良いところである。もっとアピールしていけば人口減少を抑えられる。</p> <p>・小中学生世帯の半分は組合に入っていない。若い世帯にメッセージが届かない。</p> <p>・地域の魅力を発信する。</p> <p>・親の働き口が少ないと子どもは帰ってこようと思わない。</p> <p>・0歳児を預ける場所がない。</p> <p>・ここに住むメリットだけでは愛着がなければ離れてしまう。地元の人と繋がっていることが大事。</p> <p>・人口減少で地域の仕組みを作り替えることが必要。</p>
		<p>☑<u>小中、保育園の保護者の意見を聞ける場所を作って欲しい。</u></p>	<p>☑<u>飯田市の財政状況から学校をこうせざるを得ないという中で議論すべき。</u></p>	<p>・若い人が地域に住めるよう、地域に産業を持ってくる。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">山本小学校</p>	<p>■開催日 7/8 13名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">現在</p> <p>・227人 ・9学級</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6年後</p> <p>・177人 (見込)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が少なくなることでできるようになることもある。 ◆地域の活動を通じて大人と触れ合い地域への愛着が生まれる。 ・国は5年かけて35人学級を進めるとのことだが、もっと早く少人数学級を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑<u>市教委としてどこまでなら学校を維持できるといったボーダーや考えを先に示すべき。このままでは理想論ばかりで結論はまとまらない。無責任な議論になる。</u> ☑<u>学運協は学校にできたのを地域が教委に代わって支えるもの。一緒に運営方針を承認して参画して評価していくという趣旨。これは学運協へ投げかけるべき課題ではない。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子どもが雨の日に遊ぶ場所がない。 ・山本地区は中学が統合されたマックスが非常に大きい。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">伊賀良小学校</p>	<p>■開催日 7/8 15名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">現在</p> <p>・821人 ・26学級</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6年後</p> <p>・722人 (見込)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伊賀良小では統廃合ということはないが、何れ来る変革に備えて体制作りをする時。 ・その子の夢を保証する教育。 ◆<u>学力以外の力を地域が学校と協力して育む。そういう場を提供することは大きな可能性のある方法。</u> ・地域の産業や農産物を子どもへ浸透させるか。 ◆<u>どんな子どもに育てたいかのビジョンを描くことが大事。描かないと到達できない。</u> ◆<u>先生の負担が増加している。学校へ地域のマンパワーを入れるシステムが必要。</u> ・中学の部活動の選択肢を確保してほしい。これから子育てをしようと思った時に、部活動数が少ないと帰ってこようと思わない。・旭中ではいろんな職場の人、地域で頑張っている人の話を聞く機会を設ける準備をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑<u>統合の前からでも不要となった校舎、施設は整理していくべき。</u> ・学校の枠にとらわれず、自由に校区をまたいで通えることはあっても良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県の人はい小さい頃からそこで育って、大学もそこ、就職もそこ。こんな良いところはないと思っている。 ・田舎では転職するとキャリアアップがない。東京ではキャリアアップできる。田舎へ帰ってこないのはそんな理由があるのか。 ・民間の知恵のある方を市教委で雇い、違った発想を外部から入れる。 ・一点突破のように一つのことに注力すべき。それによって波及的に良い影響が及ぶと思う。

【**県中学校区**】…小1校、中1校

学校名	基本情報	意見交換で出された内容のまとめ [☑: 次回に向けた要望・質問事項]		
		特色・魅力ある学校づくり	学校の配置・枠組み	地域の活性化・他
県中学校 ・ 県小学校	■開催日 合同 6/28 12名 現在 [県中] ・360人 ・12学級 [県小] ・663人 ・21学級 6年後 [県中] ・344人 (見込) [県小] ・696人 (見込)	◆ 県地区は小中学校が近い位置にあり、学校運営協議会も一つ。小中連携については他の地区からも参考になる取組をしていると思う。 ◆ 教育の方向や学び方がどう変わる可能性があるかをしっかり持つ。校舎を造るといったハードが先ではない。 ・これから社会が変わり教育が変わる中で、今までの学校の概念で考えることはできない。 ・これまでスポーツ・文化活動は部活動の枠組みで考えてきたが、これからは地域クラブ、文化活動でやっていく時代になるのではないか。 ◆ 児童生徒数が少なくなるからではなく、この町としてどんな子に育てほしいかという視点を大事にしたい。	・小中学校は地域に根ざして、自宅から通えることが大事。 ・それぞれの地区で小中連携により地域に根ざした学校づくりをしてきた。そういう成果を生かして一緒になる。 ・学校教育としてよりふさわしい環境を考えた時、県全体をどうするかというビジョンが必要。 ☑ <u>飯田市のコミュニティは小学校区を基本にしているの、単に学校だけではなく地域の根幹に関わる課題。</u> ◆ 校舎の建て替えが必要であれば、県は小中で一つの建物という考え方はある。また公民館などとの複合施設も検討する。 ☑ <u>現在の県小は教室が狭い上に児童数が多い。</u> ・義務教育学校的な縦の繋がりとしてICTを活用した複数校同時授業など横の繋がりでの学校のあり方を考える。 ◆ 県まちづくりとすると自治振興センター、公民館、防災センター、図書館などを統合した施設整備を市へ要望しており、これに学校施設をどう繋げるかも課題。 ☑ <u>これからの学びについての話を聞く機会を設けてほしい。</u>	☑ <u>通学区(調整区)を検討するにあたり、区域外通学の児童生徒数を示してほしい。</u>

【高陵中学校区】…小2校、中1校

学校名	基本情報	意見交換で出された内容のまとめ [☑: 次回に向けた要望・質問事項]		
		特色・魅力ある学校づくり	学校の配置・枠組み	地域の活性化・他
高陵中学校	<p>■開催日 7/8 14名</p> <p>現在</p> <p>・508人 ・15学級</p> <p>6年後</p> <p>・480人 (見込)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが関わり合いながら高めていく学習も大事だが、知識を得るにはインターネットも有効。 親の立場からすると生徒数はあまり重要視していない。大きい学校も小さい学校もよし悪しがある。デメリットを少しでも良くする活動をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校では中学までほとんど人間関係が変わらない。高校で急にに関わる数が増える子どもとの発達と合わなくなり不登校になってしまう。適正な学級数と学級の人数を確保する方法を考える。 浜井場小と上郷小の学区の再編も一つの方法。 飯沼はリア開発で変わる。座光寺小と上郷小の学区再編も必要ではないか。 学校区の区割りは一朝一夕にできない。今は地域にいる子どもたちを如何に地域で大事に育てるかを考える。 	<p>☑この課題に対する取り組みが遅い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市教委だけでなく飯田市全体で人を増やすことを考える。人が増えれば子どもも増える。 リア開通により人が入ってくることを期待したい。 卒業すると都会に出てしまい帰ってこない。就職する場所がなく、生活が成り立たない。生活できるようにして人口を増やす政策をやっていく。
座光寺小学校	<p>■開催日 6/5 13名</p> <p>現在</p> <p>・223人 ・10学級</p> <p>6年後</p> <p>・186人 (見込)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆10～30年後を見据えた子どもの未来をどう思い描き、それに対しどう考えていくかを話し合っていければ良い。 過去のデータから座光寺小や高陵中がどんな現状にあるのか知っておくことが大事。 		
上郷小学校	<p>■開催日 7/5 14名</p> <p>現在</p> <p>・773人 ・24学級</p> <p>6年後</p> <p>・599人 (見込)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の人と上郷の子が、学校でもっと交流できるといい。例えば、野菜を作るスペースがあればかわりが生まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑上郷小の長寿命化工事と合わせて、上郷の3つの児童館、児童クラブをどうするか地域と十分に協議して方向性を出してもらいたい。 ☑共働きで児童館へ子どもを預けたいが、入れない状況。 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり委員会では人口増と移住を一番に考えている。そうすれば子どもも増える。 社協ファミリーサポートの活動で児童館以降に子どもを預かる。社協とも協働しながら子どもを産んでも働ける安心した状況を広めたい。

【遠山中学校区】…小2校、中1校 遠山3校は合同学校運営協議会

学校名	基本情報	意見交換で出された内容のまとめ [☑: 次回に向けた要望・質問事項]		
		特色・魅力ある学校づくり	学校の配置・枠組み	地域の活性化・他
3校合同準備会	<p>■開催日 6/9 12名</p>	<p>・「遠山郷を愛し、誇りを持ち、遠山郷を背負っていく人材の育成」を共通認識に学校の魅力作り、課題を出し合っていく。</p> <p>◆上村小の特徴はかみむらっこ応援団との連携で地域が学校に参加していること、複式指導の研究、合唱や自治体と学校が一緒になって SDGs に取り組んでいること。</p> <p>◆和田小は教科による学級編制を取り入れている。答えがある教科は少人数で進めることは有効だが、答えのないことは様々な人と関わり自分で考えることが大事。</p> <p>・ウェルカムティブロジェクトや霜月祭りなど両地区で被る活動が多々ある。今回を期に一緒にやっていけたらと思う。</p> <p>・地域と学校の関わりはバランスが難しい。生徒にとって詰め込みすぎになっていないか心配。</p> <p>◆遠山には本気になっている大人がいる。そういう人に触れ、憧れることで勉強する意味を知る。</p> <p>☑何のためにやるのかを可視化できれば良い。各校のグランドデザインはあるが、連携して情報発信できると良い。意識と高い人と低い人との乖離が問題。</p>	<p>和田小の大池校長より5/22に行われた市長、教育長との懇談内容について報告。</p> <p>①和田保育園の来年度入園児が4名、年中は1名、年少は1名。飯田市内で一番早く児童数0が予想されるのが和田小であること。</p> <p>②市長から「地域から学校を消すつもりはない。必ず残す。」との発言があったこと。</p> <p>・少人数はメリットもありデメリットもある。ほとんどが生徒会の役員になるが、育つ生徒は育つし、息つく暇もなく潰れてしまう生徒も出てくる。</p>	<p>・遠山に住んでもらう事、学校に通ってもらう事を考えなければならない。協力隊の女性が結婚して、地域にも溶け込んでいる。そういう人が増えてほしい。</p> <p>・自治会長の受け手もなく、コミュニティの維持も厳しい状況。移住定住人口を受け入れる態勢づくりが必要。</p> <p>・住民に待ったなしの状況であることが伝わっていない。広く地域に目的を周知していく必要がある。ユネスコスクールのような旗印があると変わってくるかもしれない。</p>

3 校合同 全体会	<p>■開催日</p> <p>7/21</p> <p>25名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遠山郷全体のグランドデザインを作っていく。トップダウンではなくみんなで作っていく。 ・少人数ならではの良さがあり、地域との距離が近く多世代との交流がある。 ・地域の伝統を自分たちが繋いでいくという感覚がある。 ・悲観的なことばかりでなく、この地域で育つことは可能性がある。 <p>◆和田小では今年度より「やまざと親子留学」に取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまざと親子留学には一筋の光が見えた気がしたが、和田小・遠山中の魅力がないと続かない。 ・やまざと親子留学に向けて住まいや仕事のリスト作りを進めている。都会では田舎志向が強いのでアプローチを進めていきたい。 <p>◆ユネスコスクールを進めて、世界に誇る特色のある学校を目指してほしい。</p>	<p>☑市長は学校を残すと<u>言ったそうだが、校舎の老朽化が進んでいる。学校を残すとは校舎の建て替えをするということか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの心の中にも学校は存続してほしい、転校してお友達が来てほしいという思いはある。 <p>◆上村小に特認校制度を導入して現在に至っていることを考えると、遠山のこれからにも可能性はあると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特認校の子どもたちもここが故郷だと思ってもらえるように、教育環境を整えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KOA 南信濃工場の社員募集に3名の応募があったが、南信濃を見て2名が断った。これが現実だが逆にここがヒトになる。単に住宅を提供すだけでなく生活する環境も重要。 ・子どもたちに何が欲しいかアンケートしたところコンビニだった。しかし、この地域で便利さを求めることは難しい。こういう環境が好きだという人はいるはず。それを信じて頑張る。 ・飯田市街地からの通勤は40分ほど。職場さえあれば働きに来る人はいる。 ・今は非常に苦しい時だが、三遠南信道の開通、国産材の値上がり、東京一極集中の崩壊などで苦しい時代が続くわけではない。
	<p>現在</p>			
	<p>6年後</p>			
	<p>[遠山中]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・33人 ・3学級 <p>[和田小]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26人 ・4学級 <p>[上村小]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18人 ・3学級 			
	<p>[遠山中]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・17人 (見込) <p>[和田小]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10人 (見込) <p>[上村小]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8人 (見込) 			

令和3年度2学期意見交換の進め方

○1学期の意見交換では、児童生徒の減少、校舎の老朽化の現実を知っていただいた上で、学校の課題や地域の取組などを結論ありきではなく、思ったことをざっくばらんに出していただきました。中でも多く寄せられた意見としては

- ・保護者にも説明が必要である
- ・地域の中で話し合いをすべき
- ・保育園保護者の声も聴くべき
- ・他の地域の資料がほしい
- ・学識経験者の意見を聞きたい
- ・小中連携,一貫教育の成果を生かす

などがありました。

○2学期の意見交換でも結論を求めるものではなく、1学期の意見交換を踏まえ、いかに学校の特色・魅力を磨き上げていくか、また1学期の意見交換で学校の配置・枠組みの意見があった学校では、その学校の特色・魅力を生かすにはどのような配置・枠組みの可能性があるか、または今のままで特色・魅力を生かす方法があるかなどさらなる意見交換を進めていただければと考えています。

○2学期の意見交換では、各学校から出た意見を踏まえ、意見交換の内容や出席いただく方などをそれぞれの学校と事前に協議しながら進めていきます。

学校における児童生徒数減少の影響
 ※文部科学省中央教育審議会の資料をもとに作成

	よい面	心配される面
児童・生徒の学び	<ul style="list-style-type: none"> • 児童生徒一人ひとりに寄り添った学びを実現しやすく、それぞれの個性を伸ばす教育が行える。 • お互いのことを深く知ることができるので、その関係性を生かした深い学びが成立する。 • 単級学級ではクラス替えがないので、ずっと安心した人間関係の中で学び続けることができる。 • 学校中の児童生徒がお互いのことをよく知っているのも、異学年の学びが進みやすい。 • 全校で1つのことを作っていくとき、全員が協力してまとまりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 他の児童生徒の考えに触れる機会が少なくなり、考えの深まりや広まりに限界がある。 • 多くの児童生徒と競い合う経験が生まれにくく、たくまさが育ちにくい • 児童生徒の役割が固定化されやすく、多様な能力を引き出せない可能性がある。 • 単級学級ではクラス替えがないので、ひとたび人間関係が崩れると、その修復が困難になる。 • 中学校や高校に進学したとき、人間関係を築くことに苦労することがある。 • 運動会や音楽会などの種目数や楽曲の選択肢が少なくなる。 • 部活動やクラブ活動などの選択肢が少なくなる。 <p>[参考] 緑中：運動部 12、文化部 7 旭中：運動部 13、文化部 5 台遠山中：運動部 2、文化部 2 竜東中：運動部 2、文化部 2</p>
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> • 教職員が全校の児童生徒を把握しており、全教員が全校の生徒に関わりながら教育活動を行える。 • 授業や行事の際に小回りが利きやすく、様々な活動を取り入れやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 教職員数が少ないため、経験、教科、特性など面でバランスのとれた配置を行いにくい。 • 学年を一人で経営することになり、相談したり研究を深めたりすることができにくい。 • 校務分掌など一人あたりの負担が大きくなり、授業や子ども以外の事で多忙となる。 • 学級経営等に問題が生じた場合、校内で支援体制を組むことが難しい。
保護者や地域	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもたちの顔と名前が一致していて、あいさつを交わしたり、気軽に声をかけたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 保護者も常にPTAや地区の役員をやることになり、多忙感がある。

教員配当基準(国基準)と令和3年度市内各学校の状況

○現行制度では、法令により学級数に応じて配置される教職員数が決まっています。ここでは普通学級数に応じた教員配当基準を紹介いたします。この他に特別支援学級数に応じた配置(※)などがあります。

○表のように学級数が減少すれば、教職員数も減少します。学校が一定の学級数を下回ると、小学校では専科教員が配置されないことや、中学校では全ての教科(9教科)の専任教員がそろえられないこととなります。例えば学級数3の中学校では7人の担任・専科教員が配置されるので、2教科が専門外の教員になる可能性が生じます。

[中学校教員配当基準]

学級数	校長	教頭	担任	専科	生指	合計
1	1	1	1			3
2	1	1	2	2		6
3	1	1	3	4		9
4	1	1	4	3		9
5	1	1	5	3		10
6	1	1	6	3		11
7	1	1	7	4		13
8	1	1	8	5		15
9	1	1	9	5		16
10	1	1	10	6		18
11	1	1	11	6		19
12	1	1	12	6		20
13	1	1	13	6		21
14	1	1	14	7		23
15	1	1	15	7		24
16	1	1	16	7	1	26
17	1	1	17	8	1	28
18	1	1	18	9	1	30
19	1	1	19	10	1	32

3学級
遠山中 生徒数 33人
竜東中 64人

6学級
竜峡中 146人
東中 196人

7学級
西中 226人

12学級
鼎中 360人

15学級
高陵中 508人

17学級
旭ヶ丘中 599人

19学級
緑ヶ丘中 632人

[小学校教員配当基準]

学級数	校長	教頭	担任	専科	合計
1	1	1	1		3
2	1	1	2		4
3	1	1	3		5
4	1	1	4		6
5	1	1	5		7
6	1	1	6	1	9
7	1	1	7	1	10
8	1	1	8	1	11
9	1	1	9	1	12
10	1	1	10	1	13
11	1	1	11	1	14
12	1	1	12	1	15
13	1	1	13	1	16
14	1	1	14	2	18
15	1	1	15	2	19
16	1	1	16	2	20
17	1	1	17	2	21
18	1	1	18	2	22
19	1	1	19	2	23
20	1	1	20	2	24
21	1	1	21	2	25
22	1	1	22	2	26
23	1	1	23	2	27
24	1	1	24	2	28
25	1	1	25	2	29
26	1	1	26	3	31

3学級
上村小 児童数 18人

4学級
和田小 26人

6学級
千代小 33人
千栄小 39人
上久堅小 42人
三穂小 82人

9学級
山本小 227人

10学級
座光寺小 223人

13学級
竜丘小 379人

17学級
丸山小 459人

19学級
鼎小 663人

23学級
松尾小 736人

24学級
上郷小 773人

26学級
伊賀良小 821人

※ 特別支援学級に応じた配置

8人で1学級。1学級につき教員1人を配置。

学校の規模(学級数・児童生徒数)について

●「学級編制の基準」について
長野県の市町村立小・中学校 学級編制基準

1	同学年の児童・生徒で編制する通常学級	
	(1)小学校第1・2・3・4・5・6学年	35人
	(2)中学校第1・2・3学年	35人
2	二つの学年児童・生徒で編制する学級(複式学級)	
	(1)小学校 全学年	連学年で8人以下
	(2)中学校 全学年	連学年で8人以下
3	飛び複式学習	
	(1)小学校 いずれの学年も	4人
	(2)中学校 いずれの学年も	4人

〈参考〉 国の学級編制基準

1	同学年の児童・生徒で編制する通常学級	
	(1)小学校第1・2学年	35人
	(2)小学校第3・4・5・6学年	40人
	(3)中学校第1・2・3学年	40人
2	二つの学年児童・生徒で編制する学級(複式学級)	
	(1)小学校第1学年を含む場合	連学年で8人以下
	その他	連学年で16人以下
	(2)中学校 全学年	連学年で8人以下
3	飛び複式学習	
	(1)小学校第1学年を含むいずれの学年も	4人
	その他いずれの学年も	8人
	(2)中学校	いずれの学年も 4人

●学校規模の分類に関する法令等

◆学校教育法施行規則

第41条 小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とす
る。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限
りでない。(同規則第79条により、中学校に準用)

◆義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令

第4条 法第3条第1項第4号の適正な規模の条件は、次の各号に
掲げるものとする。

(1) 学級数がおおむね12学級から18学級までであること。

◆公立学校施設整備事務ハンドブック

・ 過小規模校 小学校5学級以下、中学校2学級以下

※これらの基準を飯田市の各学校に当てはめると次頁のようになります。

飯田市の各学校の規模(学級数・児童生徒数)

○次の表は小学校19校と中学校9校を学級数により分類したものです。令和9年度の推計は令和2年度末のそれぞれの年代の住基人口から推計しています。児童生徒数の減少により学級数も減少し、過小規模校は小学校で5校、中学校で1校になる見込みです。

【中学校】

区分	平成23年度	令和3年度	令和9年度推計
小規模校 (3~11学級)	6校 遠山中 3学級 37人 竜東中 3学級 81人 竜峡中 6学級 165人 飯田西中 7学級 262人 飯田東中 8学級 242人 県中 11学級 389人	5校 遠山中 3学級 33人 竜東中 3学級 64人 竜峡中 6学級 146人 飯田東中 6学級 196人 飯田西中 7学級 226人 県中 11学級 344人	6校 遠山中 3学級 17人 竜東中 3学級 65人 竜峡中 6学級 142人 飯田東中 6学級 160人 飯田西中 6学級 182人 県中 11学級 344人
標準規模校 (12~18学級)	2校 高陵中 16学級 586人 旭ヶ丘中 17学級 590人	3校 県中 12学級 360人 高陵中 15学級 508人 旭ヶ丘中 17学級 599人	2校 高陵中 15学級 480人 旭ヶ丘中 16学級 515人
大規模校 (19~30学級)	1校 緑ヶ丘中 21学級 737人	1校 緑ヶ丘中 19学級 632人	1校 緑ヶ丘中 19学級 620人
学校数	9	9	9
学級数	92	88	85
生徒数	3,089	2,764	2,525

【小学校】

区分	平成23年度	令和3年度	令和9年度推計
過小規模校 (5学級以下 複式学級あり)	2校 上村小 3学級 17人 千栄小 5学級 28人	2校 上村小 3学級 18人 和田小 4学級 26人	5校 上村小 3学級 8人 和田小 3学級 10人 千栄小 4学級 16人 千代小 5学級 30人 上久堅小 5学級 33人
小規模校 (6~11学級)	9校 上久堅小 6学級 41人 和田小 6学級 56人 千代小 6学級 65人 三穂小 6学級 74人 川路小 6学級 101人 下久堅小 6学級 178人 浜井場小 6学級 191人 追手町小 7学級 173人 龍江小 8学級 157人	11校 千代小 6学級 33人 千栄小 6学級 39人 上久堅小 6学級 42人 三穂小 6学級 82人 川路小 6学級 98人 龍江小 6学級 116人 浜井場小 6学級 132人 下久堅小 6学級 139人 追手町小 6学級 143人 山本小 9学級 227人 座光寺小 10学級 223人	8校 三穂小 6学級 48人 龍江小 6学級 79人 下久堅小 6学級 92人 浜井場小 6学級 93人 川路小 6学級 101人 追手町小 6学級 121人 山本小 7学級 177人 座光寺小 7学級 186人
標準規模校 (12~18学級)	3校 座光寺小 12学級 256人 山本小 12学級 325人 竜丘小 15学級 438人	2校 竜丘小 13学級 379人 丸山小 17学級 459人	2校 竜丘小 12学級 298人 丸山小 15学級 429人
大規模校 (19~30学級)	5校 丸山小 22学級 658人 県小 24学級 767人 上郷小 24学級 804人 松尾小 25学級 821人 伊賀良小 30学級 1010人	4校 県小 21学級 663人 松尾小 23学級 736人 上郷小 24学級 773人 伊賀良小 26学級 821人	4校 上郷小 19学級 599人 県小 23学級 696人 松尾小 24学級 700人 伊賀良小 25学級 722人
学校数	19	19	19
学級数	229	204	188
児童数	6,160	5,149	4,438

※学級数は通常学級で算出



少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組の進め方 (R3・R4 スケジュール)

飯田市教育委員会



児童生徒「ひとりひとり」の学びを支える



地域に根ざした飯田らしい教育環境づくりに向けて

よりよい教育環境の創造のために議論を始めました

「飯田市が抱える課題」×「これからの義務教育」

社会の変化は情報化やグローバル化だけでなく、それと同時に、これまで経験したことのない人口減少・超少子高齢化が進行しています。そのような中で、子どもたちが笑顔で通うこれからの学校像を描くことは、従来の教育環境整備だけでは難しくなり、県内はもとより下伊那のなかでも様々な動きがあることはご承知いただいていると思います。[例：根羽村立義務教育学校根羽学園の開校(2020)、天龍村は施設一体型小中併設校(2024)など]

飯田市でもこれは遠い将来の課題ではなく、今の大人が考えなければならない、そして先延ばしにできない課題であると考えています。そこで、地域や保護者の皆さんと一緒にテーマ「これからの時代の教育に対応したよりよい教育環境」について、市内すべての学校運営協議会で協議をスタートさせていただきました。

「子どもたちの未来」×「みんなで考える」

テーマ「これからの時代の教育に対応したよりよい教育環境」

<子どもたちの未来>

教育ビジョン「地育力による 未来をひらく 心豊かな人づくり」の理念は、これからの時代を生きる子どもたちの資質・能力を育みます。

人間力・学びに向かう力の根っこを太らせる教育を充実させ、自律した学びをはぐくむ教育環境に向けて学校運営協議会で協議していきます。



本年度は上記のテーマについて意見交換

<プロセス>



本年度はこのテーマについて、学校運営協議会で2回協議していきます。すべての学校、中学校区の話し合いに市教育委員会が出席し、現状と見通しを説明します。

[小・中28校(小中合同含む)]

■学校運営協議会①(5月～7月)



- 市全体と学校を取り巻く現状の共通理解
 - ・数字や事実からみる現状理解と把握



■学校運営協議会②：熟議(9月～12月)

- 学校運営協議会が描く将来の学校像
 - ・子ども主体の10～30年後の学校ブランド
 - ・悩みや課題の解決に向けた方策の協議
- 現状把握から「校区の課題」をもつ
 - ・学習環境・通学区・施設・地域の未来 等



「学校を取り巻く環境」×「対話・協働」

学校運営協議会の意見を整理し、今後の進め方を提案

事務局(市教委)は、小・中学校28校の学校運営協議会や中学校区合同学校運営協議会で出された意見や将来の学校像を受け止め、協議された課題や方向性について集約します。そして、各学校運営協議会の方向性をまとめ、令和4年度以降の検討方法や手順について整理し、提案します。

―「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取り組み研究会(16名で組織)」で協議します―



【豆情報】 飯田・下伊那の小中学校設立は全国に先駆けて進み、明治8年の小学校数は85校で、その内飯田市に所在する小学校は37校だったと記録されています。この地の教育風土は、地域と一緒に先進的な教育を行いこれからの人材を育てようとする精神が根付いていて、戦後(昭和21年)の記録には「文化程度と教育熱意高く、施設よし」と記録が残っています。このように地域の方々と一緒に創り上げてきたこの地の教育風土には、先進性と独自性が脈々と流れています。



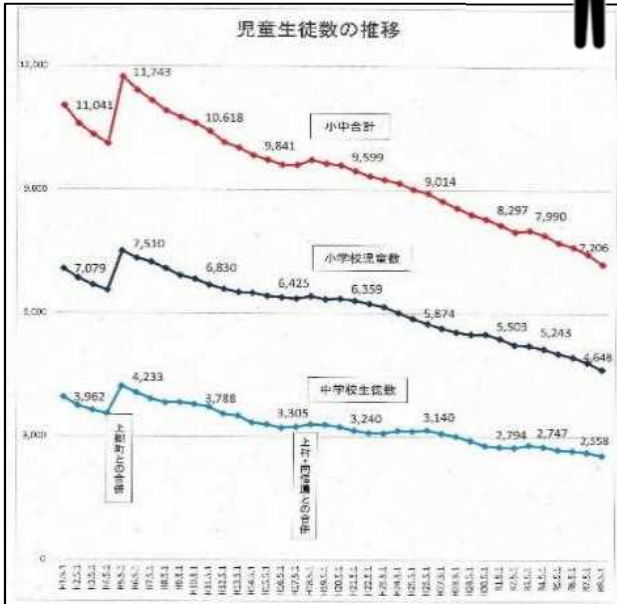
【先延ばしにできない目に見える課題】



目に見える課題はわかるけど、学校は学習者である子どもたちのためにある…

1

児童生徒数の推移

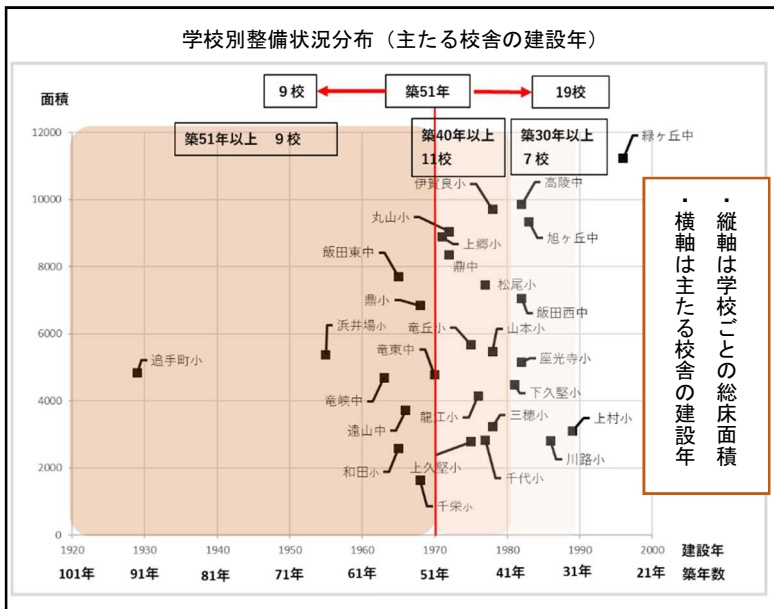


左図のグラフは市内の児童生徒数の推移を表しています。人口減少・少子化に伴う飯田市の年少人口は減少し、小・中学校の児童生徒数も減少し続けています。上郷町と合併した平成5年をピークに、令和8年はピーク時の約6割の児童生徒数になってしまいます。

児童生徒数減は学校の小規模化につながり、教職員数も減少します。学校が一定の学級数を下回ると、小学校では専科教員が配置されないことや、中学校ではすべての教科の専任教員をそろえることができません。この解決には市独自の予算で教職員を配置しなければなりません。

2

学校施設の状況



市内には小学校19校、中学校9校の計28校があります。左図は校舎の建設年を表していますが、築年数51年以上の小中学校が9校あることがわかります。

校舎を長寿命化改修しない場合の財政負担は、今後40年間、年平均で約15.5億円(一般財源約5.4億円)の支出になる計算です。ここ5年間(2015-2020)の平均は2.5億円ですので、6.2倍の支出が必要になります。

【少子・人口減少社会に対応した活力ある教育環境】

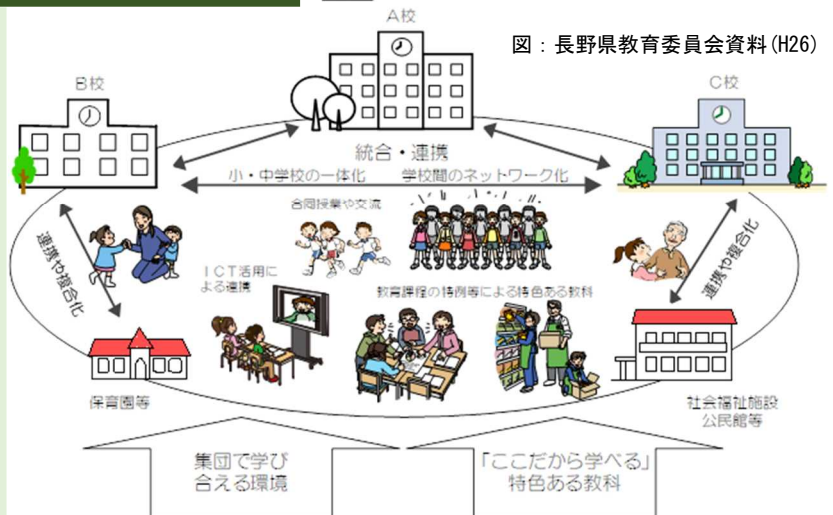


こんな学校はどうだろうか…

児童生徒中心の活力ある学校を整備するために、学校、家庭、地域、教育委員会がそれぞれの役割から将来を見据えた学校づくりを検討していくことが求められています。

子どもたちが通う学校の現状を理解し、地域の実情に応じた「魅力ある学校」を一緒に考えましょう。

右図は、地域ごとに描く活力ある学校づくりのヒントを盛り込んだイメージ図になります。少子・人口減少社会に対応できる方策は一つではありません。皆さんの意見を結集しましょう。



■問い合わせ先 飯田市教育委員会事務局学校教育課 (課長) 桑原 隆 (担当) 竹村 公彦 ☎0265-22-4511 [内線] 3717 📠0265-23-8996